

人紙の表

「未来の私」は 高校の数学の先生 「高1」で決心し、 一路勉学に励む

理工学部数学科2年

黄金早紀さん



理工学部では、毎年『GIRLS DAY』を開催している。「世の中を変える！ 理工系女子のチカラ」と銘打って、理工系学部への進学を目指している女子高生を招き、理工学部で学ぶ女子学生との懇談、交流などを通じて、「未来の私」をイメージしてもらおうというイベントだ。

しっかりと将来を見据える 大学1年で教職課程履修

今回、登場願った黄金早紀さんは、しっかりと「未来の私」を見据えている理工学部女子学生の

一人だ。「学校の先生になりたい」と明確な目標を掲げ、一路勉学に励んでいる。

大学1年生から教職課程を履修し、高校の数学の教師を目指している。「教師になるという道に迷いはない」という。大学3年生から4年生の就職活動を迎える時期になっても、職業選択に迷う学生が多い中、なぜ、これほどまでに早く決心できたのだろう。

「中学2年のときの数学の先生との出会いが最初のきっかけです。教え方が工夫されていたんです。図形の問題を扱ったときには、生徒が視覚的

に理解しやすいように立体の模型を持参して教えてくれました。また、質問に対しても親身になって答えてくれたんです」

数学が嫌いな生徒でも好きにさせてくれる先生だった。この頃から漠然とではあるが、「数学の先生になりたい」と思い始めた。

高校に入学し、ここでも良い数学の先生に巡り会えた。「高校の数学の授業では、パソコンを使ってビジュアル的に説明してくれました」と数学がますます好きになっていった。具体的に教師という職業に関心をもつようになり、「進路相談をしたりしました」という。

きっかけは中高校の先生との出会い 数学の面白さに気づき、得意科目に

中学、高校で教え上手な数学の先生と出会ったことで、数学の面白さに気づき、いつしかそれが得意科目になっていた。「高校1年で、将来は数学の先生になりたいと決心した」というその思いは、今に至るまで揺るぎはない

中央大学理工学部の数学科への進学も自ら決めた。大学では、地元埼玉の民間の奨学金を受けながら学ぶ一方、スポーツにも活発に取り組んでいる。小学校と中学校で陸上の長距離をしていたこともあり、サークルは陸上部に所属し、100m、

200mの短距離走の選手でもある。

もうひとつ力を入れているのが、アルバイトでやっている塾講師で、教える側の体験を積んでいる。

「教えるにはより深い知識が必要です。それと生徒を納得させるための理由付けが大事なんだと気づきました」と語り、塾のテキスト用を選びすぎた問題を自作のプリントにして、説得力のある教え方を目指しているという。

卒業後の進路志望は教職大学院 生徒に選択肢与えられる教師に

これからの大学生活はどのように考えているの

だろう。

「2年生では、教職課程の学生を対象にした小中学校での授業サポートにも参加しようと思っています」。これは、土日などの休日に大学近くの小中学校の補習授業に出向き、勉強でつまづいている生徒のサポートを行うものだ。「大学生のうちに来ることに色々挑戦したいんです」と語る。

大学卒業後の進路志望もすでに決まっている。「教えるための力をつけるためにも、卒業後は教職大学院へ進み、より専門性を身につけようと思っ

ています。そして、机での勉強だけでなく、積極的に学校に行って

実習もしたい」と先を見据えている。この進路に両親も賛成し、応援してくれているようだ。

強い決意を持った黄金さんの目指す、理想の教師とは一体どんなものなのだろう。

「私は、数学が嫌いな人を好きにさせるとまではいなくても、その生徒の将来の幅を広げてあげ



たいんです。選択肢を多くしてあげたい。そして、学校行事や部活動の指導もやりたいんです」と力強い答えが返ってきた。

そして最後に一つ、「数学の面白さとは何ですか？」と質問してみた。「問題に対して、解く方法を図を使ったりして考える。試行錯誤した末に、その問題がやっと解ける。その喜びと満足感ですね」と目を輝かせて答えてくれた。

(学生記者 小室靖明 II 理工学部4年)